

科目名	【 発声・滑舌 】 発声・アクセント(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	MCT高橋恭子
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	テレビ、ラジオにてCMナレーションなど出演多数・またイベントなどでのMC・企画など活躍は多岐にわたる。また企業に対してのビジネスマナー・新人研修の指導も行う。						
授業の学習内容	話しをする、あるいは読む時、その人の知性と感性が求められる。よりよいコミュニケーションのために表現力をアップして、美しく魅力的な日本語を身につける。(豊かな声量、響きのよい声、柔らかで落ち着いた声、品位を感じられる声作りで表現力をつける)この科目は1年生以上を対象とした言語文化の基礎科目です。						
到達目標	自分の話し方をありのままに捕えて、客観的に見つめ直し言葉の世界を豊かにし感性を磨くことができる。相手の心に届く「声」を使えるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	全体の講義内容について 基本の知識 機転力・ハプニングが起こった時のトレーニング等身体で憶えられる
2	復習 基本トレーニング ～実践(呼吸法・音声器官について理解できる) おさらい⇒完成させる
3	復習 基本トレーニング ～実践(呼吸法・音声器官について理解できる) おさらい⇒完成させる
4	発声法Ⅰ 基本の復習ができる「あ～た行」
5	発声法Ⅱ 基本の復習ができる「な行～鼻濁音」
6	発音実践(母音と子音・拗音など。鼻濁音について理解できる)
7	発音実践(母音と子音・拗音など。鼻濁音について理解を深められる)
8	実践:鼻濁音テスト 自分の苦手部分を見つけることができる
9	機転カトレーニング(実践・テスト) 対応力を身につける
10	コミュニケーションについてⅠ コミュニケーション力を鍛えることができる
11	コミュニケーションについてⅡ 協調性を鍛えることができる
12	表現法Ⅰについて理解できる(自己表現とスピーチについて)
13	イベントを企画して発想力、企画力、協調性を身に付ける
14	イベントを開催して対応力、適応力、協調性を身に付ける
15	イベントを振り返り、個人・グループ反省の中で、修復力を身に付ける
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書は特に使用無いが、必要に応じてプリントを配布。参考文献は授業中に紹介する。	

科目名	【 発声・滑舌 】 発声・アクセント(4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	MCT高橋恭子
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	テレビ、ラジオにてCMナレーションなど出演多数・またイベントなどでのMC・企画など活躍は多岐にわたる。また企業に対してのビジネスマナー・新人研修の指導も行う。						
授業の学習内容	話しをする、あるいは読む時、その人の知性と感性が求められる。よりよいコミュニケーションのために表現力をアップして、美しく魅力的な日本語を身につける。(豊かな声量、響きのよい声、柔らかで落ち着いた声、品位を感じられる声作りで表現力をつける)この科目は1年生以上を対象とした言語文化の基礎科目です。						
到達目標	自分の話し方をありのままに捕えて、客観的に見つめ直し言葉の世界を豊かにし感性を磨くことができる。相手の心に届く「声」を使えるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	前期復習～個人の弱点を確認し後期の目標や改善点を確認できる
2	表現法Ⅱ について理解できる (標準語と方言)
3	今まで学んだ事を表現するⅠ(個人別)ものを読むことができる。
4	今まで学んだ事を表現するⅡ(個人別)身体で表現ができる
5	表現法実践 グループ分け(2～3名) 他のグループの発表から学ぶことができる
6	表現法実践 グループ分け(2～3名) 自分の発表から課題点を見つけ出せる
7	自己PRの作り方・伝え方 相手に伝わりやすいPRの方法を学ぶことができる
8	自己PRの作り方・伝え方(発表・レポート) 客観的に自分を見つめることができる
9	発表形式での復習 課題を見つけ出すことができる
10	発表形式での復習 課題をクリアにする力を養うことができる
11	敬語について～話し言葉の実践ができる(接遇表現・敬語)
12	総合最終テスト 1年間の成長と課題を振り返ることができる
13	イベントを企画して発想力、企画力、協調性を身に付ける
14	イベントを開催して対応力、適応力、協調性を身に付ける
15	イベントを振り返り、個人・グループ反省の中で、修復力を身に付ける
【使用教科書・教材・参考書】 使用教科書は特に使用無いが、必要に応じてプリントを配布。参考文献は授業中に紹介する。	

科目名	【 演技 】 演技基礎(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間Ⅱ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	雨夜秀興
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中						
授業の学習内容	一年で学んだ、腹式呼吸で正しい発声をする、姿勢良く綺麗に立つ、自然に歩く、などといった、表現者として最低限必要な能力をより強固なものとし、基礎の重要性を再確認することが必要です。そして演技のみならず、様々なアプローチから表現とは何かを考え実践していきます。今後の夢に大きく関わってくる土台となりますので、「なんとなくできたからこれでいいだろう。」ではなく、例えば発声ひとつ取っても、「極めよう。」という気概で授業に臨んでください。日々の積み重ねが未来の自分を作ります。						
到達目標	演技の基礎技術の取得。さらには表現とは「演ずることのみならず」を知り、自覚し、他者と連携をとることができるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	与えられる課題に対し、身体表現で伝えられることができる。
2	三人でのエチュードを行い、二つのことを同時に考え瞬時に台詞に転換することができる。
3	とある家族の構成表から、プロフィールを作り、それぞれの関係性・背景を掘り下げることができる。
4	台本を用い、登場人物それぞれの関係性、背景を掘り下げ、共演者と擦り合わせを行い認識を共通させる事ができる
5	表現において、背景を踏まえたキャラクターの性格付けができる。
6	台詞を使わずに、身体のみを使った表現ができ、かつ時間内にコメディをつくることができる。
7	人形(物質)を使い、身体以外での表現を発想することができる。
8	パワーマイムを用い、情景描写、心情描写をすることができる。
9	仮想商品プレゼンテーションを行い、大衆に商品の用途・魅力を伝えることができる。
10	イベントに向けてのオーディションに於いて卒業後の実戦をイメージし取り組むことができる。
11	イベントに向けた照明プラン、音響プラン、美術プランを作成し提案することができる。
12	イベントに向けて衣装・メイク・小道具等、滞りなく準備をすることができる。
13	イベント(公演)場当たり・リハーサル～客目線で考え演じることができる
14	【定期試験】イベント(公演)本番日～「見せる」意識を養うことができる。
15	反省会(映像確認)にて自分の課題を確認することができる
【使用教科書・教材・参考書】 教材等はこちらで用意。要動きやすい格好・筆記用具。	

科目名		【 演 技 】 演技基礎(4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	雨夜秀興
教員の略歴	2000年にモデルから舞台の道へ。現在、脚本家、演出家、TVリポーター、ナレーターなど多岐に渡り活動中							
授業の学習内容	一年で学んだ、腹式呼吸で正しい発声をする、姿勢良く綺麗に立つ、自然に歩く、などといった、表現者として最低限必要な能力をより強固なものとし、基礎の重要性を再確認することが必要です。そして演技のみならず、様々なアプローチから表現とは何かを考え実践していきます。今後の夢に大きく関わってくる土台となりますので、「なんとなくできたからこれでいいだろう。」ではなく、例えば発声ひとつ取っても、「極めよう。」という気概で授業に臨んでください。日々の積み重ねが未来の自分を作ります。							
到達目標	演技の基礎技術の取得。さらには表現とは「演ずることのみならず」を知り、自覚し、他者と連携をとることができるようになる。							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。適切な挨拶、立ち方、座り方、発声を行うことができる。
2	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。基本的な立ち居振る舞いに、適切なアドバイスができる。
3	審査する側・される側に分かれ、擬似オーディションを行う。適切な表情、発想、演技表現を行うことができる。
4	審査する側・される側に分かれ擬似オーディションを行う。実践を想定したオーディションに対し適切なアドバイスができる。
5	演出体験をする。演出家の意図・理想を、演者に伝えることができる。
6	演出体験をする。演出家の意図・理想を理解し、実践することができる。
7	演出体験をする。オリジナリティを意識した演出を発想し、演者に正確に伝えることができる。
8	演出体験をする。演出家のオリジナリティを意識した演出を理解し、実践することができる。
9	現状のレベルを鑑みwe areに向けた作品の選定を客観的に行うことができる。
10	それぞれが与えられた役割に責任を持ち、「計画」を立てることができる。
11	一つの役が作品全体を支えていることを理解し、自覚し、話し合い、行動することができる。
12	二年間ないし三年間積み上げてきたものを遺憾なく発揮し、we areに向けて一致団結することができる。
13	イベント(公演)場当たり・リハーサル～客目線で考え演じることができる
14	【定期試験】イベント(公演)本番日～「見せる」意識を養うことができる。
15	反省会(映像確認)にて自分の課題を確認することができる

【使用教科書・教材・参考書】  
教材等はこちらで用意。要動きやすい格好・筆記用具。

科目名	【朗読】 スタジオNA実践(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	岩尾 亮
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍後、舞台の他、CMナレーション、楽曲制作、TV番組の出演も多数。また脚本・演出など多岐にわたる。						
授業の学習内容	①実践に近い形でのナレーション技術を得るために必要な基礎を学ぶ ②実技を伴う「演技」が非常に大切であることを知る ③プロになるのは非常に困難な業種。どのようにこれからの人生に活かすかを学んでほしい ①～③から、スタジオ実習のみならず、あらゆる角度から楽しめる授業を目指す。						
到達目標	スタジオでの所作を学び、簡単なナレーションの実践、オーディオドラマの制作が行えるようになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	身体のウォーミングアップの方法、発声練習のメソッドを覚える(前半)
2	身体のウォーミングアップの方法、発声練習のメソッドを覚える(後半)
3	スタジオでの所作について、マイクの扱い方、自分の声を録音して聞いてみる
4	感情を動かすための準備、エチュードにて体の使い方を知る
5	ナレーションとは何か、なぜ必要か、「聞く」と「やる」の違いを知る
6	15秒CMナレーションの実習、テクニックを学ぶ
7	言葉を使わない身体表現、パントマイム、ゼスチャー、気持ちを伝える訓練をする
8	ドラマ制作1「グループ分け・作品の打合せ」にて意見を交わしプレゼンテーション能力を高める
9	ドラマ制作2「簡単なストーリーを作ってみる」
10	ドラマ制作3「録音」(前半)を行いCD作品の制作過程を学ぶ
11	ドラマ制作4「録音」(後半)を行いCD作品制作の過程を学ぶ
12	ドラマ制作5「マスタリング、CD焼きこみ作業」を行い作品完成までの流れを知る
13	イベントや作品発表会を一般に向けて企画～聞き手を意識し脚本を作成する
14	【定期試験】イベントや作品発表会を一般に向けて開催～聞き手・観客にむけての表現力・伝達力を養う。
15	イベント反省会、意見交換や映像にて振り返る。自分の課題を見出す。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【朗読】 スタジオNA実践(4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間Ⅱ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	岩尾 亮
教員の略歴	俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍後、舞台の他、CMナレーション、楽曲制作、TV番組の出演も多数。また脚本・演出なども行い活動は多岐にわたる。						
授業の学習内容	①実践に近い形でのナレーション技術を得るために必要な基礎を学ぶ ②実技を伴う「演技」が非常に大切である事を知る ③プロになるのは非常に困難な業種。どのようにこれからの人生に活かすかを学んでほしい ①～③から、スタジオ実習のみならず、あらゆる角度から楽しめる授業を目指す。						
到達目標	スタジオでの所作を学び、簡単なナレーションの実践、オーディオドラマの制作が行えるようになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	感情開放のためのエチュード、身体が反応することの重要性を知る
2	CMナレーション(15秒・30秒)を実践する
3	CMナレーション(長尺・モノログ)を作成する
4	台本の読み方1(状況把握をできるようになる)
5	台本の読み方2(空間の解釈、たたずまいについて掴めるように)
6	作品鑑賞「オーディオドラマ・FMシアター」にて演出意図を読み取る
7	オーディオドラマ(ラジオコント)実習から、難しさを知る
8	ワークショップ・群集に対して発表する行為、人前で緊張せず話す能力とはなにかを知る
9	ナレーション(長尺)、朗読の実習から技術を身に付ける
10	オーディオドラマ・脚本制作を行い発想力・構成力を身に付ける
11	オーディオドラマ・録音作業をお互いに行い技術・演出力を身に付ける
12	オーディオドラマ・発表会を行い感想や意見交換をする
13	イベントや作品発表会を一般に向けて企画～聞き手を意識し脚本を作成する
14	【定期試験】イベントや作品発表会を一般に向けて開催～聞き手・観客にむけての表現力・伝達力を養う。
15	イベント反省会、意見交換や映像にて振り返る。自分の課題を見出す。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 振り付け 】 CREATION (3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	俳優コース 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	担当教員	岩尾亮
教員の略歴	俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍。舞台の他、テレビ番組、CMナレーション、楽曲制作など活動は多岐にわたる。						
授業の学習内容	①演劇活動のすべての基礎となる「身体表現」の重要な部分「演技」の深さを知る ②全ての表現にとって重要であるし、どのような職業にも役立つ ③この技術を人生のいろいろな場面で活かして生きてほしい。 ①～③を踏まえ、人生の厚み、成熟を目的としたい。						
到達目標	より複雑な、繊細な感情表現・身体表現を目指し自身でコントロールできる技術を身に付ける						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	ワークショップ・なまった身体を起こす、エチュードで遊ぶことができる
2	ワークショップ・エチュード2、歌、リズムの実践を行える
3	エチュード作品から学ぶ、人生を切り取るとはどういうことかを考え実践する
4	エチュード作品から学ぶ、他者を演じるとはどれくらい大変なことを考えることができる
5	作品鑑賞「小劇場作品」(前半)にて身体表現を心で感じる
6	作品鑑賞「小劇場作品」(後半)・ディスカッションにて身体構造を理解できる
7	パントマイムの基礎を学ぶ、理解できる
8	パントマイム作品・振り落としにてイメージできる
9	パントマイム作品「人生」を演じる
10	自我と他者との距離感をつかむエチュードにて全体像を浮かべられる
11	即興芝居を作ってみよう1(コントになって結構)考えず身体を動かすことができる
12	実技試験をおこなう
13	イベントの企画～身体パフォーマンスを取り入れ演舞を企画立案ができる
14	【定期試験】イベントの開催～身体パフォーマンスを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養う
15	反省会(映像観察)にて課題を確認することができる
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【振り付け】 CREATION (4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	俳優コース 声優コース	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	担当教員	岩尾亮
教員の略歴	俳優・放送タレント。劇団イナダ組等で活躍。舞台の他、テレビ番組、CMナレーション、楽曲制作など活動は多岐にわたる。						
授業の学習内容	①演劇活動のすべての基礎となる「身体表現」の重要な部分「演技」の深さを知る ②全ての表現にとって重要であるし、どのような職業にも役立つ ③この技術を人生のいろいろな場面で活かして生きてほしい。 ①～③を踏まえ、人生の厚み、成熟を目的としたい。						
到達目標	より複雑な、繊細な感情表現・身体表現を目指し自身でコントロールできる技術を身に付ける						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	ワークショップ・自由に演じるとは何かを考え身体表現を行うことができる
2	ワークショップ・がんじがらめに設定を加えて演じてみるができる
3	ワークショップ・自身の限界点を知る、どう乗り越えるか考える
4	作品鑑賞「プロデュース作品」(前半)にて身体の使い方をイメージする
5	作品鑑賞「プロデュース作品」(後半)・意見交換しディスカッションできる
6	想像力を鍛えるエチュード1を行い関節の使い方を体感する
7	想像力を鍛えるエチュード2を行いイメージ実現力を養い実現できる
8	他者と共に探り合うエチュード・テレパスを感じてみる
9	台本から読み取る力を探ることができる
10	台本から読み取る力を探ることができる2・(野田秀樹編)
11	台本から読み取る力を探ることができる3・(松尾スズキ編)
12	実技試験を行う
13	イベントの企画～身体パフォーマンスを取り入れ演舞を企画立案ができる
14	【定期試験】イベントの開催～身体パフォーマンスを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養う
15	反省会(映像観察)にて課題を確認することができる
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 第二外国語 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
	韓国語(3)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	具イギョン
学科	パフォーミングアーツ科						
教員の略歴	日本の語学スクール、文化スクールなどで韓国語講師を務める。						
授業の学習内容	ハングルを学び、読み書きを身につけて会話する。						
到達目標	① ハングルが読めるようになる。 ② 簡単な日常会話ができるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	ガイダンス、自己紹介を学ぶことができる						
2	ハングルの構成を知ることができる						
3	ハングルを習得できる(基本母音・子音)						
4	ハングルを習得できる(激音・濃音)						
5	ハングルを習得できる(パッチム・合成母音)						
6	挨拶の表現を習得できる						
7	自己紹介の表現を習得できる 挨拶の文章が作成できる 練習発表						
8	「～は ～です」の表現の習得できる、会話練習						
9	「～ではありません」などの否定文の表現の習得できる、会話練習、 職業関連単語の学習						
10	「これ・それ・あれ」などの代名詞の学習ができる、会話練習						
11	疑問形の表現の習得ができる、家族関連単語の学習できる						
12	前期試験(筆記試験、口頭試験)						
13	イベント週を通して周りとは協力しなから作品をつくることことができる						
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することことができる						
15	イベント本番 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することことができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 第二外国語 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
	韓国語(4)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	具イギョン
学科	パフォーミングアーツ科						
教員の略歴	日本の語学スクール、文化スクールなどで韓国語講師を務める。						
授業の学習内容	様々な表現を学び会話する。						
到達目標	簡単な日常会話が自信をもって話せるようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	「います・あります」、「いません・ありません」の表現の習得ができる、会話練習						
2	基本動詞の活用の学習ができる、会話練習						
3	形容詞の活用の学習ができる、会話練習						
4	漢字語数字と固有語数字の学習ができる、会話練習						
5	「いくら・いつ」などの表現の習得ができる、会話練習						
6	時間関連の表現の習得ができる、会話練習						
7	過去形の表現の習得ができる、会話練習						
8	敬語(現在系)の活用ができる						
9	敬語(過去形)の活用ができる						
10	確認の表現と逆節を理解することができる						
11	希望・可能・能力の表現ができる						
12	後期試験(筆記試験、口頭試験)						
13	進級制作展 準備週を通して周りとは協力しなから作品をつくることことができる						
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	進級制作展 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名		【 ステージング 】 フリートーク (3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	パフォーマンスアーツ 俳優・声優		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	担当教員	城野庸子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす							
授業の学習内容	①「声」の表現者として、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の養成 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策							
到達目標	③不特定多数を意識したフリートークの重要性と構成力(組み立て方)及び、コミュニケーション能力を高める							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	イントロダクション/ フリートークとは?を掘り下げて考えて自分を考える
2	自己紹介①(ベーシック)を行い課題を考える
3	自己紹介②(自身が一番得意とする事、PRすべきポイントの言葉選び)を行える
4	フリートークネタの探し方をまとめてみる
5	アナウンサー、DJ、パーソナリティー、youtuberの違いがわかる
6	フリートーク実践① 特定層に向けてのテーマを考える
7	フリートーク実践② 不特定層に向けてのテーマを考える
8	インタビューの進め方と受け答え①にて課題がわかる
9	インタビューの進め方と受け答え②にて理解した課題を工夫することができる
10	レポーターとしての表現力とボキャブラリーを広げ、深める
11	【定期試験】前期授業総括①にて反省・意見交換を行い課題を見つける
12	【定期試験】前期授業総括②にて課題を修整する技術を見つけることができる
13	トーク番組を企画しタイムスケジュール・キャスティングができる
14	トーク番組を実行しコーナーを演出することができる。
15	トーク番組映像をチェックし、自分の課題を見つけることができる

【使用教科書・教材・参考書】

科目名		【 ステージング 】 フリートーク (4)	必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	パフォーミングアーツ 俳優・声優		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	担当教員	城野庸子
教員の略歴	ラジオをメインにプロデューサー・ディレクターとして番組やイベントを製作。また、東南アジアを中心とした海外旅行番組では、レポーター、コーディネーター、通訳もこなす							
授業の学習内容	①「声」の表現者として、ラジオDJやパーソナリティー、MC、レポーター等、活躍の場を広げる為の、基礎的なフリートーク力の養成 ②自己PR力の強化、ナレーション・発声・滑舌、オーディション対策							
到達目標	③不特定多数を意識したフリートークの重要性と構成力(組み立て方)及び、コミュニケーション能力を高める							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。							
授業計画・内容								
回数	学習内容							
1	情報の発信と受け取り方(ラジオDJ、パーソナリティーとして)を身に付ける							
2	フリートークと原稿読みの違い①を考え身に付ける							
3	フリートークと原稿読みの違い②を考え身に付ける							
4	イントネーションと方言を知り、使い分けられる							
5	レポーターに求められるものとは?をテーマに意見を出せる							
6	レポーター実践(ロケ)を行いトーク技術を学ぶ							
7	レポーター実践(スタジオ)を行いトーク技術を学ぶ							
8	レポーター実践(イベント会場)を行いトーク技術を学ぶ							
9	ディスカッション(司会者の役割)① 周りを観察することができる							
10	フリートークとレポート、レスポンス① 状況を理解した受け答えができる							
11	フリートークとレポート、レスポンス② 受け答えの技術をみにつける							
12	ディスカッション(司会者の役割) ② 状況を理解し相手の立場を考えMCができる							
13	ディスカッション(パネラーの役割) 質問や情報番組・またはバラエティでの立ち振る舞いができる							
14	【定期試験】後期・後期総括①にて課題を見つけることができる							
15	【定期試験】後期・後期総括②にて、周りに意見を伝えることができる							
【使用 教科								

科目名	【キャリア教育】 キャリア教育(3)	必修 選択	必修	年次	2	開講区分	前期
学科	パフォーマンスアート科 昼間Ⅱ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	成田 寿美子
教員の略歴	1996年FMノースウェーブにおいてニュース・お天気などを1年半担当。2003年より(株)MCミュージズ代表取締役就任。洞爺湖サミット関連やエイペックなどのレセプションをこなす。						
授業の学習内容	就職活動に向け、社会人になるための基本的な知識を学習する。実社会を視野に入れながら、知識として知るだけでなく、すぐに役立てることができるよう多数のシュミレーションを行う。						
到達目標	社会人にとって不可欠なビジネスの基本知識を総合的に身につけ、自然で感じの良い挨拶や、聞きとりやすい声、好感を与える立ち振る舞いなどを習得する。実社会に通用する自己表現スキルを身につける。						
評価方法と基準	定期試験(実技・筆記・レポート等)の成績により評価する。						

回数	授業計画・学習内容
1	オリエンテーションを聞き、授業の到達目標を理解できる
2	第一印象の大切さ・自分を知ることができる
3	第一印象の5原則 挨拶・表情・立ち振る舞い／自己表現スキルを身につける
4	第一印象の5原則 身だしなみ・言葉遣い／自己表現スキルに身につける
5	敬語①尊敬語・謙譲語・丁寧語の規則性を知ることができる
6	敬語②尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使うことができる
7	敬語の理解度を確認できる
8	ビジネス用語 明るい声・話す速度・好感を与える話し方・クッション言葉を身につける
9	電話対応① 一般の電話のマナー 電話を受けることができる
10	電話対応② ビジネス電話をかけることができる
11	お客様対応の基本を身につける
12	ロールプレイングをし、学びを体感できる
13	イベントを企画(グループワーク)して発想力、企画力、協調性を身に付ける
14	【定期試験】イベントを開催して対応力、適応力、協調性を身に付ける
15	イベントを振り返り、個人・グループ反省の中で、修復力を身に付ける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【キャリア教育】 キャリア教育(4)	必修 選択	必修	年次	2	開講区分	後期
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	成田 寿美子
教員の略歴	1996年FMノースウェーブにおいてニュース・お天気などを1年半担当。2003年より(株)MCミュージズ代表取締役就任。洞爺湖サミット関連やエイペックなどのレセプションをこなす						
授業の学習内容	就職活動やオーディションに向けた、社会人としての会話スキル、社会的スキル、サービスマインドを学び、円滑にコミュニケーションが行えるように、基本的な知識や行動学を学習する。実社会を視野に入れながら、知識だけではなく、すぐに役立てることができるよう多数のシュミレーションを行う。						
到達目標	社会人にとって不可欠なコミュニケーション力、ビジネスの基本知識を総合的に身につける。その時、その場にあった挨拶や、聞きとりやすい声、好感を持てる立ち振る舞いなどを習得し、さらにはプレゼンテーション力など実社会に通用する自己表現スキルを身につける。						
評価方法と基準	定期試験(実技・筆記・レポート等)の成績により評価する。						

回数	授業計画・学習内容
1	一般常識・各種マナー①ビジネス文章を理解できる
2	一般常識・各種マナー②名刺交換・席次の知識・訪問と対応ができる
3	一般常識・各種マナー理解度の確認ができる
4	電話対応の応用ができる
5	人間関係のマナー 目上の人や失敗をしたときの対応など人間関係を築くためのマナーを理解できる
6	イベント進行①スタッフの役割ができる
7	イベント進行②実際にスタッフとして進行、紹介などができる
8	プレゼンテーション① 発表することができる
9	プレゼンテーション② 発表し、質疑応答ができる
10	グループワーク 互いの意見を尊重し、意見交換ができる
11	グループワーク 自分が伝えたいことを言語化し伝えることができる
12	授業全体の理解度を確認できる
13	イベントを企画(グループワーク)して発想力、企画力、協調性を身に付ける
14	【定期試験】イベントを開催して対応力、適応力、協調性を身に付ける
15	イベントを振り返り、個人・グループ反省の中で、修復力を身に付ける
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 殺 陣 】 殺陣(アクション) (3)	必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	石川哲也
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	東京のアクションクラブ～劇団ひまわり札幌俳優養成所に所属。現在は、演劇ユニット主宰・俳優業および、他劇団やタレント養成所でのアクションの指導・振付・演出等を行っている。						
授業の学習内容	自分の表現がどう見えるのか？どうすると人に伝わるのか？という点を突き詰めていくレッスン。 基本的なアクションの動きを通して、内面や体 の使い方、距離感、位置取りなども考えていく。 伝える意図と伝わる意図は違ったり、人によって受け取られ方も変わるのでどう変化させてどう人に伝えるの か？を考えて表現を組み立てていく事が技術を養う。アクションはあくまでもお芝居の表現の一部、 身体能力が高ければ良いと いう訳ではなく表現力と相手とのコミュニケーションが必要です。ただ動ける体を作るのでは無く、シーンに応じ た表現力を磨く						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクションを使い、自分のイメージ通りの動きを出来るようになる。</li> <li>・人のアクションの動きを見て変化の違いを感じ取ることが出来るようになる。</li> <li>・様々な表現を試すことができるようになる。</li> </ul> 自分達でアクションシーンを組み立てる事が出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	前期レッスンの説明および個人個人の目的を知る。
2	ストレッチ及び受け身などのアクションの基礎を学ぶ。※これ以降毎時間取り組む。
3	木刀やボディアクションなどを使ったアクションの簡単な動きを学ぶ。
4	足さばきや間合いなどアクションに必要な体の使い方、相手との距離感を把握する。
5	数チームに分かれて互いのアクションを見比べそれぞれのチームの違いを検証する。
6	数チームに分かれて部分的にアクションを組み立ててみる。
7	振り付けられたアクションを自分たちなりにアレンジをする事ができる。
8	振り付けられたアクションをテーマに沿って表現する事ができる。
9	自分たちで簡単なアクションシーンを一から作る事ができる。
10	自分たちで簡単なアクションシーンを作り、客観的にどう見えるか検証する。
11	振り付けられたアクションを元に相手のアクションを演出する事ができる。
12	各チームに分かれてアクションを作り、それらをまとめて一つのアクションシーンを作ることができる。
13	イベントの企画～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養う
14	【定期試験】イベントの開催～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養う
15	反省会(映像観察)にて課題を確認することができる
【使用教科書・教材・参考書】 ・動きやすい服装(必要に応じて着替えのシャツなど)、上靴、飲み物(水または炭酸水、スポーツドリンクがベスト)、タオル	

科目名		【 殺 陣 】 殺陣(アクション) (4)	必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	後期
学科・コース	パフォーマンスアート科 昼間Ⅱ部		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	石川哲也
教員の略歴	東京のアクションクラブ～劇団ひまわり札幌俳優養成所に所属。現在は、演劇ユニット主宰・俳優業および、他劇団やタレント養成所でのアクションの指導・振付・演出等を行っている。							
授業の学習内容	自分の表現がどう見えるのか？どうすると人に伝わるのか？という点を突き詰めていくレッスン。 基本的なアクションの動きを通して、内面や体 の使い方、距離感、位置取りなども考えていく。 伝える意図と伝わる意図は違ったり、人によって受け取られ方も変わるのでどう変化させてどう人に伝えるの か？を考えて表現を組み立てていく事が技術を養う。アクションはあくまでもお芝居の表現の一部、 身体能力が高ければ良いと いう訳ではなく表現力と相手とのコミュニケーションが必要です。ただ動ける体を作るのでは無く、シーンに 伝							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクションを使い、自分のイメージ通りの動きを出来るようになる。</li> <li>・人のアクションの動きを見て変化の違いを感じ取るようになる。</li> <li>・様々な表現を試すことができるようになる。</li> <li>・自分達でアクションシーンを組み立てる事ができるようになる。</li> </ul>							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	後期レッスンの説明および個人個人の目的を知る。
2	基本的なアクション・リアクションの見直しを行う。
3	力の入れ方、抜き方、伝え方を学ぶ。
4	コミカルなアクションとリアルなアクションの違いとそれに伴うリアクションを学ぶ。
5	様々な、歩き方、走り方、止まり方、など戦う以外のアクション・リアクションを学ぶ。
6	チームに分かれ体の使い方を意識した簡単なアクションを実践し検証し合う。
7	簡単な台本を元にそれぞれのチームの解釈で芝居作りを行う。※これ以降毎時間取り組む。
8	各チームの芝居作りにおいて、必要な体の使い方、表現の取り組み方を理解していく。
9	チームごとにそれぞれの芝居の質を感じ取り、作品の方向性と特色を生み出していく。
10	中間発表を行い、互いのチームの特色などの変化を感じ取る。
11	中間発表を経て感じた事を踏まえて作品の完成度を上げる。
12	クラス内発表を通じ、体を使った芝居を学び表現に生かすことができる。
13	イベントの企画～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養う
14	【定期試験】イベントの開催～アクションを取り入れ演舞を行うことで「見せる」意識を養う
15	反省会(映像観察)にて課題を確認することができる
【使用教科書・教材・参考書】	
・動きやすい服装(必要に応じて着替えのシャツなど)、上靴、飲み物(水または炭酸水、スポーツドリンクがベスト)、タオル	

科目名		【 プロダクション実務 】 身体表現/エチュード(ナレーション)(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2年次	開講区分	前期
学科・コース	パフォーマンスアート科 声優・俳優コース		授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	大橋千絵
教員の略歴	NHKに所属後、ナレーター、役者として活動。CM、番組NA、舞台、映像作品など多数出演。							
授業の学習内容	<p>1 基礎技術(発声、滑舌など)の向上を図りながらいつ仕事の依頼が来てもいい状態をキープしておく。</p> <p>2 表現技術だけでなく、コミュニケーション能力の向上も目指す。</p> <p>3 原稿から自由になり、しっかり伝えられる表現者を目指す。Only Oneである自分の声の魅力に気づき、自信を持って表現できるようにする。</p> <p>以上のことをふまえて、現場の原稿を活用し、様々な演出を加えたり、個々の魅力を引き出し活かすアドバイスが心かげます。他の学生の発表を聴き変化に気づく耳を育て、自主練をしながら受講することでスキルアップを感じオーディション対策にもなります。</p>							
到達目標	複雑な文章もスムーズに読め、演出意図をくみ取り、提案・表現できる技術を習得。 自分の強みを見つけ、自信を持って表現でき、様々な原稿に対応できる柔軟性を身につける。							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	発声、滑舌のチェック 外郎売り 滑舌練習プリント これからについて CM原稿1を研究する
2	発声、呼吸の確認 アクセント、プロミネンス、イントネーションなどの技法の確認ができる
3	ニュース原稿 意味のかたまりを意識し、情報をしっかり伝えるトレーニング1を行う
4	ニュース原稿 意味のかたまりを意識し、情報をしっかり伝えるトレーニング2を行う
5	呼吸と発声 CM原稿 演出意図を汲み取り、考え、応えることができる
6	呼吸と発声 CM原稿 ベースの確認と振幅を広げる キャラクターを演じることができる
7	グループワーク 1 台本を使い、さまざまな演出、表現方法を体験することができる
8	グループワーク 2 台本を使い、さまざまな演出、表現方法を体験することができる
9	発声 番組ナレーション1を読みとる
10	番組ナレーション2 振り返りと夏休み課題研究を行う(お知らせ、紹介、CMを盛り込んだ1分間)
11	発声・滑舌 課題発表1
12	グループワーク 3 台本を使い、さまざまな演出、表現方法を体験することができる
13	グループワーク 4 台本を使い、さまざまな演出、表現方法を体験することができる
14	【定期試験】発声・滑舌にて基本を確認することができる 課題発表1
15	【定期試験】課題発表2にて、自身の特性やセールスポイント、またこれからの課題を理解することができる
【使用教科書・教材・参考書】	
アクセント辞典、ストップウォッチ、手鏡、基礎練習プリント(授業で配布)をファイルして毎回持参	

科目名		【 プロダクション実務 】		必修 選択	必修 選択	年次	2年次	開講区分	後期
		身体表現/エチュード(ナレーション)(4)		授業 形態	実習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	大橋千絵
学科・コース	パフォーマンスアート科 声優・俳優コース								
教員の略歴	NHKに所属後、ナレーター、役者として活動。CM、番組NA、舞台、映像作品など多数出演。								
授業の学習内容	<p>1基礎技術(発声、滑舌など)の向上を図りながら仕事の依頼が来てもいい状態をキープしておく。2表現技術だけでなく、コミュニケーション能力の向上も目指す。</p> <p>3原稿から自由になり、しっかり伝えられる表現者を目指す。Only Oneである自分の声の魅力に気づき、自信を持って表現できるようにする。</p> <p>以上のことをふまえて、現場の原稿を活用し、様々な演出を加えたり、個々の魅力を引き出し活かすアドバイスを心がけます。他の学生の発表を聴き変化に気づく耳を育て、自主練をしながら受講することでスキルアップを感じオーディション対策にもなります。</p>								
到達目標	<p>複雑な文章もスムーズに読み、演出意図をくみ取り、提案・表現できる技術を習得。</p> <p>自分の強みを見つけ、自信を持って表現でき、様々な原稿に対応できる柔軟性を身につける。</p>								
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する。								

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	発声・滑舌チェック 外郎売他 CM原稿などの作品を選択し表現する
2	発声 オーディション原稿1から課題を見出し自己分析できる
3	発声 オーディション原稿2にて、オーディション対策を行うことができる
4	発声 VPナレーション原稿へのアプローチができる
5	発声 VPナレーション原稿へのアプローチができる
6	発声 CM原稿のポイントを読み取る
7	発声 番組ナレーション1 構成を読み取り表現する技術を習得できる
8	発声 番組ナレーション2 構成を読み取り表現する技術を習得できる
9	発声 CM原稿 ボイスサンプルを作成することができる
10	発声 ボイスサンプルを作成し活用することができる
11	発声 BGMをつけながら、作品を読む ドキュメンタリー番組にて表現する
12	グループワーク 5 台本を使い、さまざまな演出、表現方法を体験することができる
13	グループワーク 6 台本を使い、さまざまな演出、表現方法を体験することができる
14	自分自身で台本や作品を選び、プロデュースすることができる。さらに客観視できる
15	振り返り 自身の特性やセールスポイント、またこれからの課題を理解することができる
【使用教科書・教材・参考書】	
アクセント辞典、ストップウォッチ、手鏡、基礎練習プリント(授業で配布)をファイルして毎回持参	

科目名	【 ヘア・メイク 】 ヘアメイク (3)	必修 選択	必修選択	年次	2	開講区分	前期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	蓮川
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	美容学校卒業後、メイクアップアトリエに入社。CMやテレビ、広告やショー、舞台、ライブ、婚礼などのヘアメイクを行い指導者としても活動しています						
授業の学習内容	ヘアセットのパターンや技術、メイク用品の使用法や技術の基礎を学ぶ。また舞台やステージでの使用法を理解し、自分を観察したうえでセルフでヘアメイクを行うことができる						
到達目標	面接やオーディションを想定し、様々な現場によるヘアメイクの違いや特徴を理解し、表現できるようになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	オリエンテーション、道具や授業の流れを理解できる
2	フルメイクの復習とセルフヘアセットをし、スキルアップを習得する
3	【春】をテーマにセルフでヘアメイクが出来るようになる
4	三つ編みや編み込み等、自分の髪の長さで出来るヘアアレンジ法を理解できる
5	黒ゴム、ピンの打ち方を学び、ヘアアレンジの幅を広げることができる
6	【ダウンスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクが出来る
7	【アップスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクが出来る
8	【夏】をテーマに、自分に似合う色を使いカラーメイクを行える
9	骨格やパーツによる見え方の違いを理解し、自分のイメージに合わせたヘアメイクが出来る
10	【タイトスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクをプランニングできる
11	【ルーズスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクが出来る
12	各自苦手なところの見直しを行い修復メイクを考えられる
13	イベントを通して観客の目に対してのプランをたてることできる
14	【定期試験】イベントの内容や観客層、企業イメージなどを考えてメイクプランを立てられる
15	イベント週本番～反省 写真映像から反省点や課題を見つけることができる
【使用教科書・教材・参考書】 メイク教材、自分のメイク道具、鏡、ティッシュ、綿棒、自分のヘア道具、化粧落とし(必要な人)	

科目名	【 ヘア・メイク 】 ヘアメイク (4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	蓮川
学科・コース	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	美容学校卒業後、メイクアップアトリエに入社。CMやテレビ、広告やショー、舞台、ライブ、婚礼などのヘアメイクを行い指導者としても活動しています						
授業の学習内容	ヘアセットのパターンや技術、メイク用品の使用法や技術の基礎を学ぶ。また舞台やステージでの使用法を理解し、自分を観察したうえでセルフでヘアメイクを行うことができる						
到達目標	面接やオーディションを想定し、様々な現場によるヘアメイクの違いや特徴を理解し、表現できるようになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	オリエンテーション、道具や授業の再確認し流れや習得内容を理解できる
2	フルメイクの復習とセルフヘアセットをし、スキルアップができる
3	【春】をテーマにプランをたてセルフでヘアメイクが出来る
4	三つ編みや編み込み等、自分の髪の長さで出来るヘアアレンジを学ぶ身に付ける
5	黒ゴム、ピンの打ち方を学び、ヘアアレンジの幅を広げる
6	【ダウンスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクが出来る
7	【アップスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクが出来る
8	【夏】をテーマに、自分に似合う色を使いカラーメイクを知り習得する
9	骨格やパーツによる見え方の違いを理解し、自分のイメージに合わせたヘアメイクが出来る
10	【タイトスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクが出来る
11	【ルーズスタイル】をテーマにセルフでヘアメイクが出来る
12	各自苦手なところの見直しを行い、修正プランをたて実行できる
13	イベントを通して観客の目に対してのプランをたてることできる
14	【定期試験】イベントの内容や観客層、企業イメージなどを考えてメイクプランを立てられる
15	イベント週本番～反省 写真映像から反省点や課題を見つけることができる
【使用教科書・教材・参考書】 メイク教材、自分のメイク道具、鏡、ティッシュ、綿棒、自分のヘア道具、化粧落とし(必要な人)	

科目名	【 アンサンブル 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
	WAACK(3)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	工藤祐果子
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	7歳からダンスを始める。HipHop、Jazz、Houseなど幅広く経験。Waack、Punking歴は約10年。						
授業の学習内容	ダンスレッスンの形式を主軸とし、Waackの基礎的な動き、およびダンスの根幹であるリズム感を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Waackの基礎的な動きを習得できる</li> <li>・ダンスの根幹となるリズム感を養うことができる</li> <li>・ダンスを通じて他者と空間を共有する喜びを感じることができる</li> </ul>						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	ベーシックトレーニング①(リズムをとれるようになる)						
2	ベーシックトレーニング②(WAACKの応用の腕の使い方を学ぶことができる)						
3	コンビネーション①-1(振付①を覚えることができる)						
4	コンビネーション①-2(振付①を反復練習し、より体に動きを浸透させることができる)						
5	コンビネーション①-3(動きに表現を出せるようになる)						
6	コンビネーション②-1(振付②を覚えることができる)						
7	コンビネーション②-2(振付①を反復練習し、より体に動きを浸透させることができる)						
8	ベーシックトレーニング③(WAACKの応用のステップを学ぶことができる)						
9	コンビネーション③-1(振付③を覚えることができる)						
10	コンビネーション③-2(振付③を反復練習し、より体に動きを浸透させることができる)						
11	コンビネーション③-3(自分なりに表現できるようになる)						
12	コンビネーション③-4 前期実技テスト						
13	イベントを通して周りとは協力しなから作品をつくることができる						
14	イベントを通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	イベント本番 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 アンサンブル 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
	WAACK(4)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	工藤祐果子
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	米軍基地内教会EAST Chapel, Anointed Voicesに参加。モダンダンスや演劇舞台等の作曲演奏、養護施設、小中学校等での公演を行う。他、様々なアーティストと共演。						
授業の学習内容	ダンスレッスンの形式を主軸とし、Waackの基礎的な動き、およびダンスの根幹であるリズム感を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Waackの基礎的な動きを習得できる</li> <li>・ダンスの根幹となるリズム感を養うことができる</li> <li>・ダンスを通じて他者と空間を共有する喜びを感じることができる</li> </ul>						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	ベーシックトレーニング④(筋力トレーニングでWAACKに必要な筋力の付け方を学ぶことができる)						
2	ベーシックトレーニング⑤(アイソレーションで上半身の使い方を学ぶことができる)						
3	コンビネーション④-1(振付④を覚えることができる)						
4	コンビネーション④-2(振付④を反復練習し、より体に動きを浸透させることができる)						
5	コンビネーション④-3(空間を意識して踊れるようになる)						
6	ベーシックトレーニング⑥(リズムキープできるようになる)						
7	コンビネーション⑤-1(振付⑤を覚えることができる)						
8	コンビネーション⑤-2(振付⑤を反復練習し、より体に動きを浸透させることができる)						
9	コンビネーション⑤-3(周りと空間を共有して踊ることができる)						
10	コンビネーション⑥-1(振付⑥を覚えることができる)						
11	コンビネーション⑥-2(振付⑥を反復練習し、より体に動きを浸透させることができる)						
12	コンビネーション⑥-3 後期実技テスト						
13	進級制作展 準備を通して周りと協力しなから作品をつくることができる						
14	進級制作展 準備を通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	進級制作展 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 演技 】 Girls HIPHOP(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
	学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	担当教員
教員の略歴	インストラクター、有名アーティストのバックダンサー出演多数						
授業の学習内容	ダンスには色々なジャンルがあり、それぞれ共通する基礎の部分や体づくり、リズムトレーニングを強化しながら、その中でも女性らしい動きを取り入れながら表現できる動きを身につける。						
到達目標	セルフプロデュースができる/基礎を学びそれを応用できる/女性らしい動きができる お仕事や授業を受ける上で求められているものに答えることができる/期日までに課題提出ができる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	自己紹介等・ダンスのお仕事などについて説明 体づくり・リズムトレーニングができる						
2	基礎の強化 体づくり リズムトレーニング アイソレーションの動かし方を身につける						
3	グルーヴ感の習得ができる						
4	ステップの基礎を身につける						
5	ウォーキングを取り入れた振付をカッコよく踊ることができる						
6	課題の振付にフォーメーションを加え、1人ではできない仲間との表現方法に挑戦できる						
7	前回の続き 練習 発表ができる						
8	課題の振付を覚えることができる						
9	チームごとに分かれ、自分たちでフォーメーション等を考えることができるようになる						
10	テストに向けた課題制作ができる						
11	テストに向けた課題制作とリハーサルを兼ねて発表ができる						
12	テスト・課題の発表本番を経験できる						
13	イベントを通して周りとは協力しなから作品をつくることことができる						
14	イベントを通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 演技 】 Girls HIPHOP(4)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
	学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	担当教員
教員の略歴	インストラクター、有名アーティストのバックダンサー出演多数						
授業の学習内容	ダンスには色々なジャンルがあり、それぞれ共通する基礎の部分や体力づくり、リズムトレーニングを強化しながら、その中でも女性らしい動きを取り入れながら表現できる動きを身につける。						
到達目標	セルフプロデュースができる/基礎を学びそれを応用できる/女性らしい動きができる お仕事や授業を受ける上で求められているものに答えることができる/期日までに課題提出ができる 1年間で習得したもので振付制作ができる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	前期を振り返って、今後の目標をもう一度確認ができる ストレッチ、体力づくり						
2	ストレッチ、アイソレーション、筋トレ、リズムトレーニング、振付を覚えることができる						
3	前回の振付の確認と続きを覚えることができる						
4	振付の完成 全員でフォーメーションをつけることができる						
5	前回のフォーメーション付き振付の確認と発表ができる						
6	新しい振付を覚えることができる						
7	前回の振付の確認、続きを覚えることができる						
8	チームに分かれて振付のフォーメーションを作成できる						
9	チームごとに確認、発表ができる						
10	テストに向けた課題制作ができる						
11	テストに向けた課題制作とリハーサルを兼ねた発表ができる						
12	テスト・課題の発表本番を経験できる						
13	進級制作展 準備を通して周りとは協力しなから作品をつくることができる						
14	進級制作展 準備を通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	進級制作展 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 発声・滑舌 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
	Voice Training(3)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	石名坂ふぶき
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	2017年～エイベックス所属ダンス&ヴォーカルグループにて活動、2021年～ソロ活動						
授業の学習内容	ピッチの安定、体を使ったリズムキープなどの基礎能力の向上、コーラス技術の習得、フレーズの持って行き方や語尾の処理など歌のクオリティを上げていく。						
到達目標	歌唱力、歌唱パフォーマンスレベルの向上させ、プロとしてのボーカルパフォーマンスが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	【発声基礎】腹式呼吸、リズムキープの練習で発声時の体を使い方を学ぶことができる						
2	【課題曲1】ピッチ安定の練習を学ぶことができる						
3	【課題曲1】ピッチ安定の練習→フレージングの決定ができるようになる						
4	【課題曲1】フレージングの決定→フレーズをまとめる練習を学ぶことができる						
5	【バラード課題曲2】パート分けしてコーラス練習にてハーモニーの習得①ができる						
6	【バラード課題曲2】パート分けしてコーラス練習にてハーモニーの習得②ができる						
7	【バラード課題曲2】チーム分けして振りをつけダンスがありながらコーラスをとるパフォーマンス練習ができる						
8	【アップテンポ課題曲3】抑揚と歌詞のアクセントの付け方の習得ができる						
9	【アップテンポ課題曲3】ハモリをとってリードに合わせる練習ができる						
10	【アップテンポ課題曲3】振りがりながら前回までの技術を体現する練習ができる						
11	歌唱テストで自分の実力を確認できる						
12	ハモリ、コーラス 前期実技テスト						
13	イベントを通して周りとの協力しなから作品をつくることことができる						
14	イベントを通して舞台のリハーサルを経験することことができる						
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することことができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 ヴォイストレーニング 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
	Voice Training(4)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	石名坂ふぶき
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	2017年～エイベックス所属ダンス&ヴォーカルグループにて活動、2021年～ソロ活動						
授業の学習内容	ピッチの安定、体を使ったリズムキープなどの基礎能力の向上、コーラス技術の習得、フレーズの持って行き方や語尾の処理など歌のクオリティを上げていく。						
到達目標	歌唱力、歌唱パフォーマンスレベルの向上させ、プロとしてのボーカルパフォーマンスが出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	【発声】前期のおさらい、体を使った発声練習のおさらいができる						
2	【課題曲4】リズムキープ練習→歌詞の理解を深めそこからフレージングを決定することができる						
3	【課題曲4】前回決めたフレージングを元に振りがある上での歌唱練習ができる						
4	【課題曲4】感情のパフォーマンスの表現練習を学ぶことができる						
5	【バラード課題曲5】リズムキープ練習→ロングトーンピッチの安定ができるようになる						
6	【バラード課題曲5】ビブラート、フェイクの習得①ができる						
7	【バラード課題曲5】ビブラート、フェイクの習得②→ハモリの練習ができる						
8	【アップテンポ課題曲6】テンポが上がっても歌がリズムをキープ出来る様に練習し習得①できる						
9	【アップテンポ課題曲6】テンポキープしながらの歌キープ練習②→コーラスライン習得ができる						
10	【アップテンポ課題曲6】早いテンポをキープしながらハモリ&リードをとる練習ができる						
11	歌唱テストで自分の実力を確認できる						
12	ハモリ、コーラス 後期実技テスト						
13	進級制作展 準備を通して周りとは協力しなから作品をつくる事ができる						
14	進級制作展 準備を通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	進級制作展 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 アナライズ 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
	LOCK(3)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	担当教員	船木稜
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	KING DANCE MATURI FINAL10 優勝 PLW-1LOCKSIDE北海道大会優勝、東京大会BEST4 他優勝多数						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・即興力を身につける。</li> <li>・音楽の感じ方を増やし、感性を身につける。</li> <li>・自分のオリジナリティ溢れるロックダンスを探し、探究心を身につける。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎のシルエットをカッコよく崩すことができる。</li> <li>・音楽アプローチの手段を増やし、よりSTOPが良くなるようにする事が出来る。</li> <li>・即興でロックダンスを踊れる様になる。</li> </ul>						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	基本姿勢が出来るようになる。基本姿勢を軸にしながらリズムトレーニングが出来る様になる。ロックダンスの歴史を覚え						
2	トウエルの基礎が出来る様になる。自分の手や足の長さを把握し、それに合ったトウエルの高さの位置を設定することが						
3	ロックの基礎が出来る様になる。ロックが出来ることにより止まる楽しさを知る事が出来る。						
4	ペイシングの基礎が出来る様になる。ロックダンスにおける呼吸方法を習い瞬発力を身につける。						
5	セルフファイブの基礎が出来る様になる。体から音を鳴らし、音楽に対してのアプローチ方法を増やすことが出来る様に						
6	ポイントの基礎が出来る様になる。ストップルック、リズムルックを理解し鏡から目線を外す事が容易になることが出来る						
7	基礎が出来る様になったファイブエレメンツを組み合わせて踊れる様になる。						
8	シャッフル、スクービードウ、ストップアンドゴーが出来る様になる。						
9	スキーターラビット、スクーパーホップが出来る様になる。						
10	実技テストの内容を把握し、テスト前のメンタルを整えることが出来る様になる。						
11	実技テストの振りを練習し出来る様になる。						
12	実技テスト						
13	イベント週を通して周りとは協力しなから作品をつくる事が出来る						
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	イベント本番 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 アナライズ 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
	LOCK(4)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	担当教員	船木稜
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	KING DANCE MATURI FINAL10 優勝 PLW-1LOCKSIDE北海道大会優勝、東京大会BEST4 他優勝多数						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・即興力を身につける。</li> <li>・音楽の感じ方を増やし、感性を身につける。</li> <li>・自分のオリジナリティ溢れるロックダンスを探し、探究心を身につける。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎のシルエットをカッコよく崩すことができる。</li> <li>・音楽アプローチの手段を増やし、よりSTOPが良くなるようにする事が出来る。</li> <li>・即興でロックダンスを踊れる様になる。</li> </ul>						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	上腕三頭筋をコントロールし、STOPの質をあげれる様になる。リズムキープしながら、5エレメンツを踊る事が出来る様に						
2	5エレメンツの磨き上げ癖をつける。胸のアイソレーションのコントロールが出来る様になる。						
3	他ジャンルの音楽でロックダンスを即興で踊れる様になる。						
4	耳のトレーニングをし、多様な音楽の聴き方が出来る様になる。それを活かし即興で踊る事が出来る様になる。						
5	5エレメンツをパズルのように組み合わせて踊る事が出来る様になる。						
6	ダンスセッションを学び、出来る様になる。						
7	ロックダンスの振り付けを創れる様になる。						
8	ロックダンスの技の振り付けを8×8間違えずに踊る事が出来る様になる。						
9	5エレメンツの振り付けを8×8間違えずに踊る事が出来る様になる。						
10	実技テストの内容を把握し、テスト前のメンタルを整える事が出来る様になる。						
11	実技テストの振りを練習し出来る様になる。						
12	実技テスト						
13	進級制作展 準備週を通して周りとの協力しなから作品をつくる事が出来る						
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験する事が出来る						
15	進級制作展 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露する事が出来る						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名		【 歌唱 】 K-POP(Boys)(3)	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
学科・コース	パフォーマンスアート科		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (6)	担当教員	福井 龍平
教員の略歴	北海道ダンスプロジェクト会員、札幌コレクション出演、lolバックダンサー K-POPオーディション対策メンター、新人開発・パフォーマンストレーナー							
授業の学習内容	本クラスを通じて、アーティスト、バックダンサー、主にK-POP業界で活躍できるよう 基本トレーニングを軸に応用的な振付でステージングスキルを身につける。 また、メンタル的観点からも表現力や実力を高める。							
到達目標	①K-POPダンスの応用概念を理解する。 ②総合的にステージでのパフォーマンススキルを身につける。 ③正しいトレーニングで身体的・心理的能力を向上させる。							
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する							

授業計画・内容	
回数	学習内容
1	K-POPダンスの基礎的概念(リズム、ラインコントロールなど)の基礎ができるようになる。
2	K-POPダンスの基礎的概念(リズム、ラインコントロールなど)の応用ができるようになる。
3	振付を通し個人の現在のパフォーマンスレベルを確認・評価することができる。
4	振付を通しチームでのパフォーマンスレベルを確認・評価することができる。
5	ステージング表現の基礎を身につける。
6	ステージング表現の応用(俯瞰でパフォーマンスを考察)を身につける。
7	(基本)個人で自主制作をした振付でパフォーマンスすることができる。
8	(応用)チームで制作をした振付でパフォーマンスすることができる。
9	高難易度のトレーニングを実践し、自己評価できる。
10	高難易度の振付を実践し、レベルの高いパフォーマンス能力を身につける。
11	(個人)K-POPダンスを通じ、一つの作品でステージをトータルプロデュースできるようになる。
12	(チーム)K-POPダンスを通じ、仲間と協力しながらステージパフォーマンスをできるようになる。
13	イベント週を通して周りとの協力しながら作品をつくることができる。
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる。
15	【定期試験】イベント本番 舞台上に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる。
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	【 殺陣 HOUSE(3) 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	前期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	櫻井啓輔
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	合同会社SWELLにてインストラクター、アーティストバックダンサー多数経験						
授業の学習内容	基礎となるアイソレーションや、リズムトレーニングを行いダンスの基礎を学び表現力を身につける。						
到達目標	STEPやフロアコントロールを中心に授業を展開し、即戦力となるダンサーになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	目標に向けた道筋をたて、意思表示をより明確に示すことができる						
2	よりダンサーに必要な体力作りを学ぶことができる						
3	アイソレーションで身体の各場所を分けて使うことができる						
4	リズム応用①(音をきいてリズムをとれるようになる)						
5	リズム応用②(リズムに合わせて自然な動きができるようになる)						
6	STEP応用①(HOUSEの応用ステップを学ぶことができる)						
7	STEP応用②(ステップの名前を理解し、実際に踏めるようになる)						
8	STEP応用③(ステップを使った応用ルーティンにチャレンジできる)						
9	振り付け応用①(振り付け応用①を覚え、踊れるようになる)						
10	振り付け応用②(振り付け応用②を覚え、自分なりの表現を加えて踊れるようになる)						
11	振り付け応用③(振り付け応用③を覚え、周りの空間を意識しながら踊れるようになる)						
12	前期テスト 前期の成果を発表することができる						
13	イベント週を通して周りとは協力しなから作品をつくることができる						
14	イベント週を通して舞台のリハーサルを経験することができる						
15	イベント本番 舞台に立ち、実際にパフォーマンスを披露することができる						
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	【 殺陣 HOUSE(4) 】	必修 選択	必修 選択	年次	2	開講区分	後期
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	担当教員	櫻井啓輔
学科	パフォーミングアーツ科 昼間Ⅱ部						
教員の略歴	合同会社SWELLにてインストラクター、アーティストバックダンサー多数経験						
授業の学習内容	基礎となるアイソレーションや、リズムトレーニングを行いダンスの基礎を学び表現力を身につける。						
到達目標	STEPやフロアコントロールを中心に授業を展開し、即戦力となるダンサーになる						
評価方法と基準	定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により評価する						
回数	授業計画・内容						
1	前期のおさらいをして後期の目標をたてることができる						
2	難易度の高いフロア・コンタクトを学ぶことができる						
3	振り作り①(曲を選び、イメージをたてることできる)						
4	振り作り②(振りを自分で考え、構成も踏まえて作ることできる)						
5	振り作り③(反復練習でより振りの完成度を高めることできる)						
6	パフォーマンスの強化①(自分のパフォーマンスを見直し課題を見つけることできる)						
7	パフォーマンスの強化②(プロのパフォーマンスを研究して取り入れることできる)						
8	HOUSEダンスに関しての最新の情報を学ぶことできる						
9	振り付け応用④(振り付け応用④をより早く覚え、踊れるようになる)						
10	振り付け応用⑤(振り付け応用⑤をより早く覚え、自分なりの表現を加えて踊れるようになる)						
11	振り付け応用⑥(振り付け応用⑥をより早く覚え、周りの空間を意識しながら踊れるようになる)						
12	後期テスト 前期の成果を発表することできる						
13	進級制作展 準備週を通して周り協力しながら作品をつくることできる						
14	進級制作展 準備週を通して舞台のリハーサルを経験することできる						
15	進級制作展 舞台上立ち、実際にパフォーマンスを披露することできる						
【使用教科書・教材・参考書】							